

平成25年度
在外教育施設派遣教員帰国報告会資料

クアラルンプール日本人学校教員の実際

～在マレーシア日本大使館附属日本人会日本人学校での貢献活動～

平成22年度派遣

所沢市立松井小学校

教諭 刈谷和哉

1. はじめに

在マレーシア日本大使館附属日本人会日本人学校に、平成22年度に埼玉県から私を含め3名が派遣された。私以外の二人の先生が、学校の様子や子ども達の学習の取り組みを詳細に紹介すると思う。そこで、私は、クアラルンプール日本人学校に派遣された教員が、日本とマレーシアの関係向上の為、また日本人会充実の為、日本人学校充実の為にどのような取り組みを行っていたのかを是非紹介させていただきたいと思う。



2. マレーシアへの貢献活動

(1) 日本語教室

日本語教室は、マレーシア人を対象として行う授業である。初級4クラス、中級1クラス、上級1クラスに分け、その能力に応じた学習を行っている。期間は9月から11月の8回を水曜日に設定している。希望した日本人学校職員が、この日本語教室に当たる全ての業務をボランティアで行っている。マレーシア人の方々は熱心に学習する方が多く、受講証明書を受け取る姿はとても誇らしげであった。また、最後のレッスンの後には、懇親会が開かれ日本食を食べたり、日本語のスピーチや歌をクラスごとに発表したりした。職員が、直接マレーシアの方々とふれあう貴重な機会になっていた。



(2) 配偶者によるボランティア活動

教員の配偶者は、PJスパスティックセンターという施設で障害を持つ子ども達のお手伝いを毎週1回行っていた。内容には3つあり、1つを選択して行っていた。①見学に来た人へのお土産として子ども達が作ったお花の仕上げをする手芸部②子どもの運動のサポートする体操部③子どもの水泳をサポートする水泳部の三つがあった。どの内容もとても充実して



おり、センターや子ども達からとても感謝されていた。配偶者は、子どもを学校や幼稚園、特別に見てくれる施設にお金をかけて預けて参加していた。このため、ボランティアは、精神的、金銭的、肉体的、時間的に奉仕しており、負担に感じている方もいたと思われる。

その他にも、日本人会の婦人会の役員を毎年配偶者から選出している。

3. 日本人会活動への貢献

(1) 日本人会墓地清掃

クアラルンプールには、日本人会が管理運営している墓地がある。日本人の職員は年に3回地区ごとに分担され、希望した子ども達と一緒に墓地を清掃した。子ども達は、スクールバスに乗って学校に集まり、そのバスで日本人会墓地に向かう。長い歴史のある墓地であり、唐行さんのお墓もある。草取り、落ち葉掃きをしてからお花と線香をお供えする。学校として長年続けており、日本人会からとても感謝をされている。



(2) 日本人会ソフトボール大会・バレーボール大会

毎月1回、日曜日に日本人会主催のソフトボール大会がある。これは、一年を通したリーグ戦で多くの企業や同好会チームが参加している。日本人学校では、日本人会を盛り立てていくことを目指し、小学部・中学部・管理職で1チームを編成し、試合に臨んでいた。殆ど全員の教員が、毎月試合に参加したり、審判を行ったりした。



バレーボール大会もソフトボール大会と同じような趣旨から3チーム編成をして参加をしていた。このバレーボール大会は、年に2回行われた。

(3) 日本人会新年会・バザー

日本人会新年会は、毎年日本人会で行われる。そこで、餅つきの手伝いをしている。沢山の子ども達が新年会に参加するので手伝いを行っている。また、10月に行われるバザーには、教員の配偶者が自分で作製した巾着や人形、造花、アクセサリー等を一年間かけて準備をし、出品していた。その量は多く、質も高いので、買い物客を喜ばせていた。また、手作りの職員やお菓子も大量に作り、バザー当日持参していた。更に、子どものいない教員の多くが販売の手伝いをしたり、配偶者はバザーの役員や販売を行ったりした。このバザーの収益金はマレーシアに毎年寄付している。



4. 日本人学校への貢献

(1) 英語検定・漢字検定

英語検定は小学三年生から受験することができる。英語検定は、AETと日本人教員が協力して年に2回実施している。マレーシアは、イギリスの植民地であったこともあり、英語が多用されている。それを反映するように、子ども達も英語を話す機会がとても多い。そういう背景もあり、保護者は英語教育にとっても積極的で、関心も高

い。学校としては、客観的な基準である英語検定を行うことで、英語教育の推奨をしている。更に日本人学校に通学していない子（日本人）であっても、日本人の為にという考えより受験の門戸を開いている。

（２）サークル活動

サークル活動は、小学部は月、火で、中学部は月、火、木に活動を行っていた。部活動とは違い、保護者が主体となっていた。最近では、主体が保護者から学校へ移りつつあり、その所在があやふやになりつつあった。サークルには、男子サッカー、バドミントン、女子バレーボール、バスケットボール、吹奏楽がある。

バスが出発した後に活動を行うので、参加人数がどうしても少なくなってしまうたり、試合や発表する場が少なかったりした。そんな中、教師は子ども達のやる気と技能を伸ばそうと勤務時間外にも関わらず、一生懸命に取り組んでいた。



（３）サッカー活動

毎週金曜日の夕方6時から、希望する教員がグラウンドに集まり、マレーシアの方々とサッカー親善試合を行った。この活動は、学校で働くマレーシアスタッフと交流することをめあてにしている。また、普段はあまり交流できない小学部・中学部の教員の親睦、交流、発散の場となった。この会により、教員同士の結束は堅くなり、学校で起こる諸問題を一丸となって対処していた。



5. 終わりに

クアラルンプール日本人学校では、マレーシアや日本人会、そして学校の為に子どもへの教育活動以外に沢山の活動を積極的に行ってきた。それは、派遣された教員であると言う事と日本の為、マレーシアの為を考えているからだと思う。私は、この学校に派遣され、共に励まし合った仲間と出会い、切磋琢磨できた事を誇りに思う。